

モロッコ政務月報(3月)

2014年4月16日
在モロッコ大使館

3月のモロッコの動きを、当地報道を中心にとりまとめたところ、以下のとおりです。要人往来については末尾に一覧表を付しました。

なお、当政務月報は当月中にメディアで多く取り上げられた話題をその都度に記録したもので、これらニュースについての当館及び日本政府の立場を何ら反映するものではありません。

【主な出来事】

- ◎軍事司法関連法の改正が閣議決定。一般人は犯罪の種類によらず軍事裁判の対象外となること等が定められた。
- ◎第3回日・モロッコ合同委員会開催。

<内政・政局>

1 軍事司法改革

- (1) 17日、軍事司法関連法の改正が閣議決定された。
- (2) 改正法により、一般人は犯罪の種類によらず軍事裁判の対象外となること、及び軍人であっても一般犯罪に関しては軍事裁判の対象外となること、等が定められた。
- (3) 同改正法は昨年秋以降モロッコが進めている人権分野における改革の一環と位置づけられる。

2 ゲラブ衆議院議長続投の意向(その後選挙によりアラミ候補が議長に)

- (1) Assabah紙によると、ゲラブ衆議院議長は春会期以降も議長職を続投する意向であると明かした。
- (2) ゲラブ議長はイスティクラル党(PI)の所属であり、同党が昨年5月に連立内閣離脱を宣言したことから去就が注目されていた。ゲラブ議長は、議長職は所属政党に関わりなく議院のすべての構成員に対して責任を負っており、与党・野党の論理とは無関係であると述べている。
- ((3) その後4月11日に議長職の選出投票が行われ、RNIのアラミ候補が新たに衆議院議長に選出された)

3 不法移民合法化措置の実施状況

- (1) 20日、モロッコ王国国立図書館にて行われたセミナーにおいて、国家人権評議

会のエル・ヤザミ事務局長が本年1月より開始された不法移民合法化措置の実施状況を発表した。

(2) 13000の申請書類がこれまで(3月20日時点)に提出され、そのうちの2.3% (300)ほどが滞在許可証を交付されるに至っている。

4 テロリストグループの検挙

(1) 3月14日未明、スペイン警察当局はメリリヤ(Melilia)(注:モロッコ北部のスペイン飛び地領)にて3人を逮捕した。1人はイスラムに改宗したスペイン人、2人はシリアへ向かおうとしていたフランス人である。同じ頃モロッコ警察当局は、ナドール(Nador)(注:メリリヤ近くの町)近郊のラロウイ(Laroui)にて3人のモロッコ人を尋問していた。さらに、一人のチュニジア人がマラガのグアルディア・シビル(スペイン憲兵隊)によって検挙された。

(2) スペイン内務省によると、これら7人は複数の国で活動し既にシリアに何十人もジハードистを送り込んでいるとされる危険なテロリストグループのコアとなっているメンバーとのことである。

(3) 今回の(テロリスト検挙)作戦はモロッコ、スペイン、米国の情報機関の協力により行われた。

<外交・国際関係>

5 在モロッコ・モーリタニア大使の召還

(1) アブデル・アジズ・モーリタニア大統領は、在モロッコ・モーリタニア大使館のMohamed Ould Mekhale 臨時代理大使を帰国させ、マリへの異動を命じた(他の報道によれば、大使に任命された由)。

(2) モロッコ国王モハメド6世がガボンで行ったスピーチ(他の報道によれば、モハメド6世は「アブデル・アジズ大統領のAU議長就任は何の意味もない。」と述べた由)により緊張が高まったことが原因とされる。

(3) 一方でモーリタニア当局は、駐モロッコ・モーリタニア臨代の召還をめぐる噂を否定している。当国外務・協力省関係者は、本件は外交団再編成のため、臨代を新たなポストに任命しただけのことであり、両国関係は良好であると述べている模様。

6 第5回モロッコ・カタール・ハイレベル合同委員会開催

(1) 10-11日、ベンキラン・モロッコ首相とアル・タニ・カタール首相の共同議長により、第5回モロッコ・カタール・ハイレベル合同委員会開催が開催された。

(2) 同委員会では、協力に関する複数の協定及び複数の分野における合意文書が署名された。

(3) 具体的には、治安分野や航空輸送分野における協定、MAP通信とQNA通信間

の情報協力に関する協定，水産関係従事者の学位の相互認証に関する合意文書，社会発展に関する合意文書，青年協力に関する協力協定の実施プログラムに関する合意文書などである。

7 第3回日・モロッコ合同委員会開催

(1)7日，岸副大臣とブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣の共同議長により，第3回日・モロッコ合同委員会が開催された。

(2)合同委員会において両国は，政治，経済，財政，文化，技術分野における良好な両国間の友好・協力関係を歓迎し，こうした関係をさらに強化する意思を再確認した。

8 在モロッコ米大使の任命・着任

(1)13日，在モロッコ米大使へのドウワイト・ブッシュ氏の任命が議会で承認された。同氏は昨年8月にオバマ大統領により在モロッコ大使に指名され，議会の承認を待っていた。その後，30日に着任。

(2)ブッシュ氏はこれまでワシントンの財務コンサルティング会社「D. L. ブッシュ&アソシエイツ」の社長を務めるなど，実業界で活動。

9 アフリカ諸国との協力に関する第1回官民合同委員会会合の開催

(1)19日，メズアール外務・協力大臣の主催により，アフリカ諸国との協力に関する第1回官民合同委員会が開催された。

(2)右委員会は，2月中旬から行われたモハメッド6世国王のアフリカ諸国(マリ，コートジボワール，ギニア，ガボン)訪問の際に合意された合計91の社会・経済分野における条約及び協定の実施を目的として，国王からの指示に基づくもの。

(3)今次会合においては，官民それぞれの出席者により今後実施するプロジェクトや合意内容の総括及びアクションプランの確認が行われた。

10 シリア難民

(1)モロッコは14日，モロッコの複数の都市で「モスク及び信者を混乱させた」とされているシリア人難民の国外退去を警告した。内務省コミュニケは，当局は「モロッコへの入国及び滞在に関する法令に対する違反者の即時国外退去」の手続きを進めるとしている。

(2)永代財産・宗教省のコミュニケは「シリア人は大都市の複数のモスクにおいて，神聖な場で発されるべきではない言葉を使った」と述べている。この「言葉」が何を指すのかは明らかにされていないが，Akhbar al Yaoum 紙によれば，当局はモロッコ内のモスクに政治的要素が入り込むことを恐れたのではないかとのことである。

(3) As-Sabah 紙は、スンニ派であるモロッコの宗教的特性及び教義的統一性をシーア派的活動が脅かすのを恐れたのではないかという仮説を立てている。

11 モハメッド6世国王の中国訪問

(1) 発展と公正党(PJD)のホームページによると、モハメッド6世国王は6月の中国訪問を予定。

(2) これは在モロッコ中国大使がPJDの会合の場で述べたもの。

(3) 国王の中国訪問は昨年12月に王毅外相がモロッコを訪問した際にモハメッド6世国王に伝えた習主席からの招待を受けて検討されているもの。

12 モロッコ・中国投資フォーラムの開催

(1) 31日、モロッコ及び中国の外交協会(Fondations diplomatiques)と中国経団連(CCPIT)の共催により「モロッコ・中国投資フォーラム」が開催された。

(2) 中国人企業関係者80名近くとモロッコ人企業関係者が参加。

(3) 本フォーラムは、両国の経済協力の強化・拡大だけでなく、中国・モロッコ・アフリカの三角協力促進等を目的としたもの。

<モロッコ要人の外国訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
3月1日	ヨルダン	ベンキラン首相	ヌスール首相兼国防大臣等と会談
3月3日	スイス	ラミッド法務大臣	人権理事会出席
3月3日-	スイス	ブーアイダ外務・協力特命大臣	人権理事会出席
3月6日-	イタリア	ブーアイダ外務・協力特命大臣	リビア支援閣僚会合出席
3月6-9日	ペルー	ゲラブ衆議院議長	オタロラ議長らと会談
3月10日	チリ	ゲラブ衆議院議長	バシュレット大統領認証式出席
3月25日	クウェート	ベンキラン首相	第25回アラブサミット出席
3月26日	オランダ	メズアール外務・協力大臣	第3回核セキュリティサミット出席
3月31日	スペイン	ベンキラン首相	スアレス元首相の葬儀出席

<外国要人のモロッコ訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
3月5日-	モナコ	アルベール2世公	ムーレイ・ラシッド王子らと会談
3月5日	スーダン	アル・カルリ鉱山大臣	ベンキラン首相らと会談
3月7-8日	日本	岸外務副大臣	第3回日・モロッコ合同委員会を共同議長
3月9日	カタール	アル・タニ首相兼内務大臣	ベンキラン首相らと会談 第5回モロッコ・カタール・ハイレベル合同委員会を共同議長 第31回アラブ内務大臣会合出席
3月10日	英国	ロバートソン中東・北アフリカ担当相	ベンキラン首相, メズアール外相らと会談
3月11日	カタール	イマディ財務相	ブーサイド経済・財政相らと会談
3月11日	サウジアラビア	アル・サウド王子(内務大臣)	ハッサド内務大臣と会談 第31回アラブ内務大臣会合出席
3月13日	ブルガリア	ヴィゲニン外相	メズアール外相と会談
3月24日	アンティグア・バーブーダ	スペンサー首相兼外務大臣	バハ国務大臣等と会談

(了)